

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520148

研究課題名(和文) 第三の美術展(コミュニティ型アートプロジェクト)による地域教育力の開発

研究課題名(英文) Promotion of Community Based Education through Community Based Art Projects

研究代表者

斉藤 泰嘉(SAITO, Yasuyoshi)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：40282347

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、地域の住民や作家が主体となって、市街地、学校、里山など、美術館以外の場所で行う地域密着型アートプロジェクトを第三の美術展と位置づけ、その地域教育力を開発することを目的としている。水戸市との協働事業として水戸市立浜田小学校において「放課後の学校クラブ」というアートプロジェクトを事例研究の一つとして実施し、地域の商店街や神社、公園を舞台に一日限りの学校を3年にわたって開校した。ここでは子どもが先生となり、大人が生徒となる。このプロジェクトを通じて子どもたちが、地域の社会や自然の中で人間的に成長する姿を確認することができた。他にも同様の地域密着型アートプロジェクトについて事例研究を行った。

研究成果の概要(英文)：This study aims to promote community based education through community based art projects held outside museums. We can call such projects The Third Type Art Exhibition. For example, an art project called School after School held in Hamada elementary school, shrines and shopping mall in Mito City for three years made it clear that school children grew up gentle and strong through this community based art project. In this series of one day educational program project, school children played their roll as a teacher to the adults participating in this program as a pupil. We researched several other community based art projects as well as this case study.

研究分野：芸術支援

キーワード：第三の美術展 地域密着型アートプロジェクト 地域教育力 地域の多様な人間関係 子どもの人間的成長 無意識的学習 芸術による社会貢献 学校外の学びの場

1. 研究開始当初の背景

近年各地で展開されているコミュニティ型アートプロジェクトは、美術団体展(日展、院展、二科展など)や美術館主催による企画展とは異なる第三の形式を持った美術展としてその地位を確立しつつある。美術団体展を第一の美術展、美術館企画展を第二の美術展、コミュニティ型アートプロジェクトを第三の美術展と名付けることで今日の美術展の現状を分析する。第一の美術展は作家の新作発表の場であり、出品、審査、展示という流れを団体の会員が自ら行う作家主導型の展覧会である。第二の美術展は美術館としての研究発表の場であり、専門職員である学芸員の調査研究活動に基づいて実施する学芸員主導型の展覧会である。これに対して、第三の美術展は、基本的に美術館の外側で実施されることが多く、上記の第一、第二の展覧会とは異なる性格を持っている。今日、この第三の美術展は隆盛をきわめており、越後妻有アートトリエンナーレ(新潟県十日町市)や瀬戸内国際芸術祭(瀬戸内海の島々)といった大規模な事例からカフェ・イン・水戸(茨城県水戸市)や常総市まちなか展(茨城県常総市)といった中小規模の事例まで、様々なレベルにおいて実施されている。これらは、地域全域が会場となることによって、作品が地域コミュニティに対して開かれ、その結果地域住民の参加が誘発されていく点に大きな特徴がある。言わば、地域住民協働型の美術展である。そこにはアートを媒体とした多様な人間関係が生まれる。また、商店街や自然景観の中に置かれた絵画や彫刻は、美術館の中に展示される場合と異なり、自ら周囲の環境と融合し、未知の風景を創造する。

2. 研究の目的

本研究は、第三の美術展が持つと思われる「地域教育力」に焦点を当てることにより、第三の美術展が誰に何をどのように教えるのかを解明し、その力をさらに開発しようと

するものである。筑波大学芸術支援研究室では、これまで地域の市民との協働のもと様々なプロジェクトを実施してきた。文部科学省の教育支援プログラムである「現代GP」として行った「美と芸術のマイスター育成講座」(学生と市民が正規の同一授業を同一の教室で学び、相互に啓発されるプログラム、平成17年度～19年度)においては「市民キュレーター」や「市民ボランティア」の養成を行った。平成22年度以降は、茨城県常総市で行われている「常総市まちなか展覧会」への協力を通じて、学生や教員が、地域の住民や作家、市役所職員などと協働しながら一つの展覧会に関わる現場を築いてきた。地域教育力の開発は今日の芸術文化政策や芸術教育の大きな課題であるが、これを実現するためには固定された人間関係の中でのみ完結する教育の場だけではなく、多様性のある人間関係の中で自ずと育まれていく学びの場を創造する必要がある。

3. 研究の方法

3年度にわたりアートプロジェクトの企画運営に関わり、地域住民への参与観察を行った。1年目に第三の美術展についての事例収集調査を行い、地域でアートプロジェクトを運営するNPO法人代表者やアーティストからの意見聴取を実施した。その結果に基づいて地域教育力開発に関する仮説を以下2点にまとめた。アートプロジェクトが地域の歴史風土を再認識させ、地域住民や児童生徒に視野の拡大や人間的成長をもたらす可能性のあること、地域でアートプロジェクトを行う際に住民と大学が協力することが有効であること。「放課後の学校クラブ」と「常総市まちなか展」を事例研究の対象に選び、運営にも積極的に関与し、仮説の検証を試みた。2年目は、上記二つのアートプロジェクトに加え、「隅田川妖怪絵巻」の企画運営に参加し、地域住民が街歩きを通じて街の記憶を学び、それを創造的に表現する地域学習プロセ

スの持つ地域教育力を確認した。3年目・4年目は、地域教育力を高めるスマートフォンアプリの開発をNPO法人と共同で実験し、開発した。

4. 研究成果

(1)平成 23 年度

第三の美術展の事例収集と分析

茨城県水戸市、茨城県守谷市、茨城県常総市、東京都荒川区、東京都青梅市、徳島県三好市等でのコミュニティ型アートプロジェクトの事例について現地での調査を行ない、アートプロジェクトが地域の歴史風土を再認識させ、そのことを通じて地域学習が、地域住民や児童生徒にとって身近なものなることを確認した。

地域教育力の開発の議論

東京都荒川区のNPO法人千住すみだ川代表海老江重光氏を筑波大学に招いて学生たちと討論を行ない、地域でアートプロジェクトを行なう際に住民と大学とが協力する重要性について確認した。

アートプロジェクト「放課後の学校クラブ」

水戸市立浜田小学校の全面的協力のもと、アートプロジェクトによる地域教育プログラムを実施した。その中で、本プログラムが子供たちの主体性確立や余暇時間の有効利用に効果的であることが確認できた。

アートプロジェクト「常総市まちなか展」

ブラジル人学校生徒向けのワークショップに参加観察し、陶芸など通常のブラジル人学校の教育ではできない授業がこども達の好奇心を刺激し、美術学習への積極的参加を促進する点を確認した。

(2)平成 24 年度

芸術による地域教育に関するワークショップの開催

平成 24 年 8 月 26 日、東京都美術館講堂において「ミュージズに捧げる白い薔薇 - 巴里から来た男、エルマン・デルスニス」と題した

ワークショップを開催。東京都美術館の歴史を振り返るトークショーとソロミュージカルを組み合わせた教育普及プログラムとして、一般来館者にも開かれた形で事業を実施した。

アートプロジェクト「常総市まちなか展」

平成 24 年 11 月 4 日、展示会場や作品販売ショップをめぐるギャラリーツアーに参加した。地域の住民や作家たちと交流する学生の行動を観察し、アートプロジェクトの持つ地域教育力を確認した。

アートプロジェクト「放課後の学校クラブ」

平成 23 年度から継続している水戸市立浜田小学校におけるアートプロジェクト「放課後の学校クラブ」を水戸市との協働事業として実施した。週 1 回のクラブ活動に加えて、地域の公園や駐車場などで一日限りの学校を開校した。

地域教育力に関するシンポジウムの実施

平成 24 年 12 月 2 日には、学校教育、地域協働、アートプロジェクトの専門家を交えたシンポジウムを実施した。

アートプロジェクト「隅田川妖怪絵巻」

東京都荒川区のNPO法人千住すみだ川によるアートプロジェクト「隅田川妖怪絵巻」の企画運営に参加し、その事業への参与観察を通じて街の記憶を学ぶ地域学習のプロセスを確認した。

芸術支援研究会の発足と実施

平成 24 年 12 月、筑波大学で芸術支援を研究する大学院生を中心に芸術支援研究会を発足させ、毎月 1 回、アートプロジェクト等に関する研究発表を行うようになった。

(3)平成 25 年度・平成 26 年度

アートプロジェクト「放課後の学校クラブ」

平成 23 年度から継続している水戸市立浜田小学校におけるアートプロジェクト「放課後の学校クラブ」を水戸市との協働事業とし

て実施した。週 1 回のクラブ活動に加えて、地域の神社や公園などで一日限りの学校を開校した。

アートプロジェクト「隅田川妖怪絵巻」

東京都荒川区の NPO 法人千住すみだ川によるアートプロジェクト「隅田川妖怪絵巻」の企画運営に参加し、その事業への参与観察を通じて街の記憶を学ぶ地域学習のプロセスを確認した。地域学習を行うためのスマートフォンアプリの開発を NPO 法人千住すみだ川と共同で行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

齋藤 泰嘉、アートプロジェクトによる地域教育力の開発、芸術支援研究、査読無、1 巻、2015、4 - 8

〔図書〕(計 2 件)

齋藤 泰嘉、他、筑波大学芸術系、ケア × アート いきいきホスピタル 2、2015、48(3-4、46)

齋藤 泰嘉、他、筑波大学芸術系、ケア × アート いきいきホスピタル 1、2014、39(5-6、14-16、21、30)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齋藤 泰嘉 (SAITO, Yasuyoshi)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：40282347

(2) 研究分担者

岡崎 昭雄 (OKAZAKI, Akio)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：80134253

直江 俊雄 (NAOE, Toshio)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：10272212